

# 【ねがいはましては】

平成27年7月24日

KYOWA SCHOOL

第297号

「何度でも」

灰谷健次郎さんの本の中に、「優しさとしての教育」があります。かなり以前に購入した本なのですが、出張などの折に持って行くことが多くあります。文庫本であり、200ページほどのものなので携帯しやすいというのも理由のひとつなのですが、何より内容です。当たり前かもしれませんが、何回読んでも発見があります。よく、子に読書をさせよといいますが、その目的は何ですかと問われれば、「成績」であると言う方は多いのではないのでしょうか。子からすれば、「〇〇冊読んだよ」と、読んだ冊数を自慢するための読書であつたり・・・。

本を読むという行為の神髄は、やはり、出会いだと思います。いつも持ち歩きたい・・・。

さて、優しさとしての教育の序盤に、灰谷さん宛のある女子大学生からの手紙があります。教育実習から得たものを切々と書いていらっしゃる。その中の一文、『先生は子どものためを思って、いっしょうけんめいしていることが、実は子どもの気持ちを無視したり傷つけたりしていることが、本当はたくさんあるんじゃないか、と最近気がつきました。』

この大学生は教育実習に行き、そこで出会った子どもたちに救われたと書いています。『あの子どもたちといると私が、力をわけてもらえる。』と、書いています。

子どもたちとの約1ヶ月の生活を通じ、それまでの自分が大きな力によって支えられた。感謝の気持ちが強く伝わってきます。最後にこう記しています。『子ども達に灰谷さんの本をたくさん読んでやります。子どもの詩もたくさん読んでやります。そして思ったことをはきださせてあげたいのです。』

この方は、教師になったら綴り方の時間をつくろうと考えました。綴り方、最近耳にしなくなった語彙です。作文のことです。作文と言えば、嫌いな子どもたちが多くいます。なぜって、こんな文章書いたら成績に響かないと、不安を隣りあわせにして取り組む子が多くいるからです。漢字も数多く使わなければならないし、常に、隣りあわせにお小言を言わなければならないと、先生や親の顔が浮かんでいるのです。特に上学年にいけばいくほど、その頻度は上がると思っています。

教育実習が終わったばかりで少々感情が先走ってしまったのか、この手紙を書いた後、この方はこの手紙を出すことを躊躇なさっています。しかし伝わってきます。子どもたちへの感謝の気持ちが・・・。

先ほどの『先生は子どものためを思って、いっしょうけんめいしていることが、実は子どもの気持ちを無視したり傷つけたりしていることが、本当はたくさんあるんじゃないか。』ですが、この先頭部分の『先生』を、『親』に変えてお読みいただきたいのです。

ひとつでも、お心当たりのある方は、是非、この教育実習生の方の手紙をお読みいただきたいのです。

作文とは、その子の心の中の色が見えてくるもの、ふだん言いたくてもいえないような心を、自由に表現できるもの。図画工作と似ているかもしれません。絵などは、子どもの心の様子をストレートに映し出すものとして、よく心理学者の方がとる手法です。その作文が「成績」という二文字によって、子の心を封じてしまっているような気がいたします。もし成績がなかったら、子どもたちは自由奔放に、ありのままを表現できるのです。できあがった作品をみんなで鑑賞し合い、今まで知ることのなかった友だちの優しさや、思いやりに出会えるかもしれません。さらに友だち同士の中で、深い絆ができていっていきます。もちろん先生も、子どもたちの作品から力をいただきます。何より感動鳴り止まないのは、お父さんお母さんでしょう。我が子がここまで成長したのかと、感極まることは当然でしょう。

親子間に、誰にも断ち切る事の出来ない強い絆が結ばれます。「成績」の二文字が小さく小さく見える瞬間でもあります。「成績など気にしなくてもいいよ、お前が毎日を精一杯に生ききってくれることが、何よりもお父さんお母さんはうれしいのだよ。」

家庭の中の先生は、紛れもなくお母さん。先ほどの大学生の一言、『思ったことをはきださせてあげたいのです。』

子どもは望んでいます。学校であったことをすべて受け止めてほしい。良いとか悪いとかではなく、とにかく聞いてほしい、わかってほしい。

また、学生はこう書いています。『全くわからない子を目の前にして授業を進めることにどんな意味があるのでしょうか。その子の自分は勉強が出来ないという劣等感を一緒に勉強していて感じます。何のために学校はあるのでしょうか。』

わからないのが当たり前だと思いながら毎日学校へ通う子。それでも笑顔は忘れない。下手な大人よりずっとずっと立派だと思えます。

今、取り組まなければならないこと・・・学ぶことの楽しさを伝えること。結果を気にせずに、黙々と取り組めるような学びを提供することです。それには・・・。

この小さな学舎（まなびや）で行われている取り組みは、内容は学校の勉強です。しかし、学校の勉強なのだと感じさせないような向かい方をしていただきたいと、こつこつ歩いております。ある子には一題ずつ手書きの問題を、ある子には先の学年の勉強を・・・。大切なことは、『生きようとする』ことです。ありがとね。